

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	63	学校名	茨城県立牛久栄進高等学校						課程	全日制				学校長名	奈良 由紀子			
副校長	為貝 祐一		教頭	石本 由布子								事務長名	近藤 彩子					
教職員数	教諭	74	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	4	実習教諭	1	事務職員	5	技術職員等	4	ALT	1	計	96
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数					
	普通科		185	175	166	191	177	177			528	543	27					

2 目指す学校像

変化の激しい社会環境に柔軟に対応しつつ、多様性を尊重し、新しい価値を創造するために必要な自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた、創造性豊かな人財を育てる学校。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・広範な知識、優れた技能、広い視野に立つ判断力を備え、各分野・領域において多様な人々と協働し、自ら問いをたて、課題を見つけ、暮らしやすい社会の創造に寄与するために常に学び続ける人財を育成する。 ・適切な自己表現・自己開示ができ、良好な人間関係の構築を目指す人財を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制高校として、多様な興味・関心に対応した多様な科目選択が可能な教育課程を編成し、生徒一人一人のニーズを大切に学習支援を実施する。 ・主体的な工夫や改善を伴って知識・技能を習得し、その過程で培われる見方・考え方を働かせて、自然、社会、人間、衣食住、健康、スポーツ、文化、芸術、地域等に関する深い洞察力、的確な判断力、根拠に基づいて説明する力の育成を目指した学びを実施する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心が豊かで、自分の興味・関心を追求するとともに、他者の存在を尊重する生徒 ・学校内外での様々な活動に積極的に参加し、自らの目標や夢を設定するとともに、自己実現の達成のために努力する生徒 ・学び続けることで習得する知見や技術を未来の社会に役立てる意欲がある生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
教科指導	<p>生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、単位制の特長を最大限に生かした教育課程の編成、多様な選択科目講座の開講に努めている。授業第一主義として「1分を大事にする授業」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、年次・教科で指導の改善に取り組んでいる。また、ICT機器等を積極的に活用するとともに、生徒の興味関心をもとに幅広く探究活動を推進し、各教科の授業においても探究的な学びにつながるよう授業改善に努めている。</p>	<p>教員が各自の授業内容や教授法に関する研究・研修をとおして資質向上を図る必要がある。そのために校内での教員相互の授業参観及び校外研修のフィードバックやリフレクションに加え、教科による先進校視察の実施が肝要である。また、主体的な学びを促すためICT機器の効果的な活用を図りつつ、教員同士の対話を深める工夫が必要である。</p>
特別活動	<p>様々な学校行事への取り組みにおいては、生徒たち全員が大変積極的に取り組んでいるが、生徒会や委員会活動への自主的な参加はまだ十分とは言えない。部活動は加入率が高く、運動部及び文化部ともに全国大会や関東大会など、よりレベルの高い大会への出場を目標にして活発に取り組んでいる。</p>	<p>生徒会・常置委員会、部活動の存在意義とその必要性について理解を深めさせ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、生徒の自主性や主体性を育むために、自ら考えて積極的に行動する力の育成を教員同士が連携協働して取り組む必要がある。</p>
生徒支援 教育相談	<p>基本的な生活態度は身に付いており、礼儀正しく真面目な態度であるが心因性の悩みを抱える生徒もおり、教育相談等を必要とする生徒は少なくない。また、交通事故や不審者遭遇等の発生件数は減少傾向にあるが今後も安全教育の徹底が求められる。</p>	<p>生徒同士の人間関係形成能力や規範意識のさらなる向上、及び課題を抱える生徒の早期発見に加え、保護者や関係機関との連携をいかに図るか。生徒に危機察知及び回避能力等を身につけさせる。</p>
進路支援	<p>ほぼ全員が4年制大学への進学希望であり、より高い進路目標の実現に向けて、個別面談を充実させるなどきめ細かな指導を行っている。その結果、近隣地域に限定されない地域にある大学等の進学者を輩出できた。</p>	<p>社会の変化を踏まえ、一人一人の生徒に自らの進路についてしっかりと考える機会を提供し、本人及び家庭の考えをしっかりと受け止めた、個別最適化された進路実現ができるよう、学校全体として組織的に指導を行う。</p>

5 中期的目標

<p>1 『活力ある進学校』・・・一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす『活力ある進学校』を目指す。</p> <p>2 『個に応じた学習指導』・・・単位制のシステムを生かし、個に応じた探究的な学びを深め、充実した学習指導を実践する。</p> <p>3 『自主自律の人づくり』・・・主体的に行動し、自分の未来を自分自身で拓く、『自主自律の人づくり』を目指す。</p>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導 －主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開－	ア 学習指導要領に対応した単位制のメリットを生かす教育課程の編成、及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した質の高い授業の展開により、生徒の学力向上を図る。 イ カリキュラムマネジメントの視点から、教科横断的な学びを推進するとともに、教員の協働体制を構築し、「チーム栄進」として学習指導要領に対応した教育活動を実践する。 ウ 観点別評価についての研修を実施し、評価のベースを作る。教科内におけるコンセンサスを獲得する。
特別活動 －積極的な活動参画の促進－	ア 生徒会活動、部活動、学校行事等を通して自主的精神と行動力を培い、より良い人間関係の形成を図る。 イ 全ての特別活動において自己理解を深め、生徒が自己の長所を生かし、自己肯定感を得られるようにする。 ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に他者を尊重して学校行事等に参加し、活力ある学校づくりを推進する。
生徒支援・教育相談 －良識ある行動をとり、自己表現が適切にできる生徒の育成－	ア 成人年齢の18歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般において生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、社会の一員としての自覚をもった自律的で協調性のある生徒を育てる。 イ 他者を思いやり、尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。 ウ 良好な人間関係の構築と適切な自己表現・自己開示ができる生徒を育てる。
進路支援 －生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導－	ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「進路支援部」が連携し、保護者も含めて生徒に対し、適切な情報提供・及び面談・学習指導の充実を図る。
国際理解教育の推進 －国際交流と海外派遣－	ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることでグローバルな感覚を養い、グローバル社会で活躍する人財を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、実体験をととして自国文化の理解を深め、異文化に対する理解を深め尊重する精神を育てる。
保護者及び地域社会との連携 －地域に開かれた学校づくりの推進－	ア 学校HPや各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に発信し、広報活動に努める。 イ 保護者と学校が連携を密にすることで、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働、支援する。 ウ 学校説明会や各種説明会、中学校訪問をととして、中学生や地域社会から本校への理解を深めてもらう。 エ 地域活動等に積極的に参加して、地域とのさらなる連携強化を図り、地域社会から信頼される学校づくりに努める。
学びがいのある環境・働きがいのある職場づくり －環境整備と働き方改革の推進－	ア 国や県の施策を踏まえ、教職員が同僚性を尊重し、教育の質の向上のために働き方改革を推進する。 イ 事務室との連携を強化し、生徒の学習環境、職員の働く環境をハード面・ソフト面で整備する。 ウ 危機管理に対する意識を高めるとともに整理整頓と清掃を心がけて、学びやすく働きやすい職場環境を構築する。 エ 教職員のコンプライアンス意識を高め、全ての生徒と教職員が安心安全な学校生活を送れるように努める。
授業改善 －授業改善からみる授業満足度の向上－	ア 教員一人一人が授業の目標や課題を明確に設定して指導法を工夫する等、常に授業改善に努める。 イ 教員一人一人が生徒の学習実態を把握し、生徒のニーズに応じた助言・指導で、生徒の疑問に適切に対応する。 ウ 教員一人一人が授業を通して生徒に知識・技能を身に付けさせ、生徒の思考力や考察力、表現力を育てる。 エ 上記のア～ウにより、学校全体の授業満足度の評価平均として3.5を目指す。

別紙様式 1 (高)